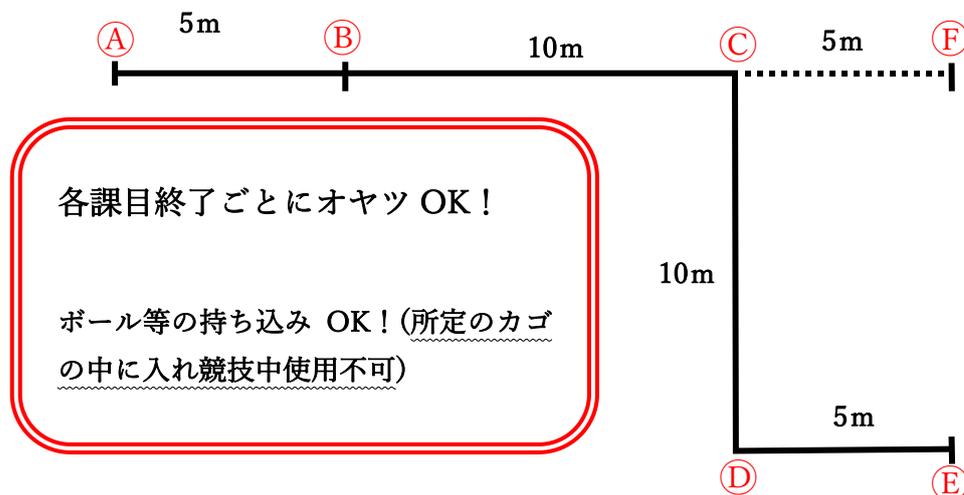


# 2024mayor`s cup 服従競技規定 **ビギナー**

服従のコースはクランク型とし図のような配置となる。尚第3課目以降紐無し作業とする。



- |  |      |
|--|------|
| 1. 紐付き脚側停座 5 秒間 <b>A</b>   | 10 点 |
| 2. 紐付き常歩脚側行進 <b>A</b> <b>B</b> <b>C</b> <b>D</b> <b>E</b> → 紐付き速歩脚側行進 <b>E</b> <b>D</b> <b>C</b> <b>B</b> <b>A</b> | 30 点 |
| 3. 紐無し常歩脚側行進中伏臥及び 15m の招呼  | 30 点 |
| 4. 停座及び 20m の招呼  | 20 点 |
| 5. 対面しての 30 秒の伏臥   | 10 点 |

コースは原則白線等で記されるものとする。

脚側行進のライン及び停止位置についての印はあくまでも作業上の目印とし、そこから少し(1m程度)ずれるのは減点されない。又、目印としてマーカーやコーンが置かれ白線の代わりとする事がある。

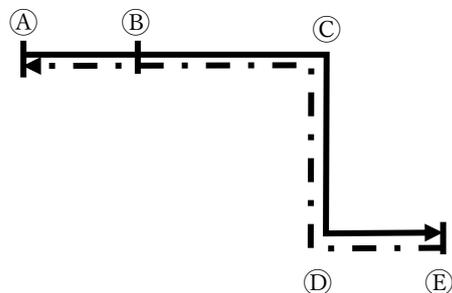
ボール等を持ち込んだ場合は申告後**A**に至る前にカゴに入れ全課目終了後に与えてもよいが次順の犬に影響しないよう配慮する必要がある。

## 1. 紐付き脚側停座 5 秒間 (1 声視符) 10 点

指導手は審査員に申告後**A**で**B**に向けて紐付きにて脚側の位置で待機させる。この時犬に褒める触る等の意思疎通を取っていても構わない。その後審査員の指示により脚側停座させる。この時 1 歩動いてもよい。又、指導手の 1 声視符で集中して脚側停座している事が望ましく余分な声視符や誘導は減点の対象となる。審査員は指導手の指示により犬が脚側停座を始めてから 5 秒後に終了を伝える。その間犬は姿勢を変えることなく集中している事が望ましい。

※約 5 秒後審査員の課目終了の合図で作業を終了しおやつを取り出しあげる事は許さる。その時犬の姿勢が変わることも許されるがすぐに次の科目に於ける脚側停座の姿勢に戻ることが求められる。

## 2. 紐付き脚側行進（復路速歩）（出発・㊦ターン・㊦ターン声視符）30 点



審査員の指示により㊦から常歩で脚側行進を開始し微㊦㊦㊦を経由し㊦でターン、座らせることなく速歩で㊦㊦㊦を経由し㊦でターンし脚側停座させ審査員の指示で終わる。最終㊦でターンした後、2歩まで前に進むのは構わない。声視符は出発及びターンで1声視符許されるが途中の声視符多用は減点となる。各ターンはドイツ式左回転ターン・左ターン・右ターンいずれも許される。ターンはUターンではなく指導手が来た道を帰る形Iターン(指導手はその場で回転)が理想とする。

※終了の脚側停座後軽い褒めと一度おやつをあげる事が許される。但し、おやつは犬の反対側のポケットに入れ、審査員の終了の合図があってから取り出す。犬は褒めにより姿勢を取り直しても構わない。

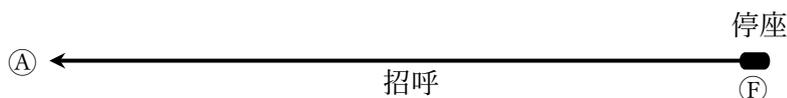
## 3. 行進中伏臥及び 15m の招呼（各動作 1 声視符）30 点



審査員の指示により㊦から常歩脚側行進し㊦にて犬に伏臥をさせ指導手は止まることなく㊦に向かい対面する。約 3 秒後審査員の指示により犬を招呼し脚側停座させる。この時犬は正面で停座させても直接脚側へ付けてもどちらでもかまわないし、前面停座後指導手が審査員の指示なく自主的に犬に指示して構わない。脚側停座させたのち審査員の合図で終了する。

※第 2 課目紐付き脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

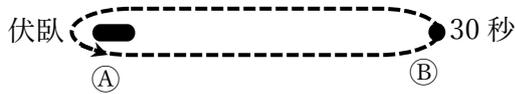
## 4. 停座及び 20m の招呼（各動作 1 声視符）20 点



㊦で審査員の指示により犬を停座させ審査員の指示で指導手は単独で㊦に行き対面する。対面後審査員の指示により犬を招呼し脚側停座させる。この時犬は正面で停座させても直接脚側へ付けてもどちら

でもかまわないし、前面停座後指導手が自主的に犬に指示して構わない。脚側停座させたのち審査員の合図で終了する。※第2課目紐付き脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

## 5. 対面しての30秒間の伏臥(各動作1声視符)10点



脚側停座から審査員の指示でAにて伏臥させ、自主的にBに向かい対面する。対面し30秒後、審査員の指示で犬の元へ戻り、審査員の指示で脚側停座させ審査員の指示で終了する。指導手が犬から離れてから犬の元へ戻り脚側停座の指示をするまでの間追加の指示をすることはできないし、指示を追加した場合それ以降の点数を失う。

※第2課目紐付き脚側行進同様作業後一度褒める(おやつ在り)ことは許される。

### 【各課目共通の規定】

○各作業の動きや反応のスピードが採点に影響されるが、明るく楽しく演技することを理想とし採点は犬種の特徴が加味される。

○紐付きの課目においてリードでのコントロールはどんな場合においても減点を引き起こす。また、犬にショックを与えるような使用は失格になることがある(後述)

○リンク内におやつ等を持ち込むことは許されるが犬の反対側のポケットに入れておく必要がある。おやつをあげるタイミングは各作業の終了時の一度のみとし課目最後の脚側停座の終了後ポケットから取り出す事とする。

○オヤツを使う際軽く撫ぜたり声をかける事は許され、犬と共に回転する、股下を通す、飛び上がらせる等追加の課目は1回のみ最短時間で実行するのは許される。

○ポシェット、訓練カバン等衣服でない物(巻きスカートのようなもの含む)を付けて競技に臨むことはできない。

○ボールおもちゃ食器等を一つリンクに持ち込むことは許されるが申告後競技開始までにカゴの中に入れる。音の出るものは禁止とし、最終課目が終了するまでカゴに入れておくこと。※おもちゃ等の使用は競技終了後最短時間(3秒以内?)で終了し競技前後リンク外での使用も含め他犬に影響しないよう配慮する必要がある。

○特別な理由がない限り首輪は一つとし、複数の首輪、胴輪との併用は禁止する。ノミ除け首輪等薬品の装着は許されるが首輪にぶら下がる形のタグ等は禁止。スパイク、電気ショック首輪の使用は禁止。皮製や布製首輪等の裏が見えない物、或いは毛等で見えない場合は審査員または要員がチェックすることがある。強制首輪の装着が判明した場合は理由の如何を問わず失格となる。

○各作業とも喜々とした態度での作業が望ましく、緩慢な作業、集中力を欠く作業、また過敏な態度や落ち着かない作業等は減点の対象となる。

○各作業とも1動作1声視符が許されるが視符は声符発声の長さを超えるべきではない。肩を入れる・

上半身をひねる・屈む等は体符として減点の対象となる。また1声視符は一つの言葉として認識される必要がある。名前の発声もコマンドとして一つであれば構わない。例：「スワレマテ」○、「スワレ、マテ」×、「スワレ」○、「スワ〜〜レッ」×、「ポチコイ」○、「ポチ、コイ」×

○1声視符ですべき動作を3声視符必要になった場合、最高得点の50%になる。目的の動作以外の補助的声視符（脚側行進の出発以外の声視符等）は程度により減点される。目的の指示（1の脚側停座・2の脚側行進の出発・3の行進中の伏臥と招呼・4の停座と招呼・5の待たせる指示）が4声符以上は0点となるが中止は審査員の判断。

○脚側行進は指導手主導で自然な歩き方で真っすぐ歩く必要があり犬に合わせて歩くことは減点の対象となる。手の位置は自然に振っていれば犬に当たらないよう犬側に開いてもかまわないが誘導的な使い方は減点対象となる。

○脚側行進のコーナーを指導手は直角に屈折するべきであり丸く曲がったり犬を押すような脚側行進は減点の対象となる。

○脚側行進の速度変化は犬の速度が明確に変わる必要がある。

○脚側行進中、犬は指導手の左側を一定の位置と方向を保ちながら自主的に指導手に集中し作業することが望ましいが必要以上に顔を上げながら行う必要はなく犬種の特徴が考慮される。身体的理由により右側に付ける事も申告により審査員に許可される。

○各作業、指導手の方向と犬の向きと距離は指導手に近く並行であるのが理想であり犬が離れた、密着しすぎる、指導手と平行でない作業等は程度により減点の対象となる。

○行進中作業（伏臥）において指導手の歩度が変わらないよう歩くのが理想とする。**歩度とは指導手のスピードであり足運びのピッチではない。**

○犬が姿勢を維持する課目（課目5）で指導手が犬の元へ戻る時、指導手から見て犬の右側を通り後ろを回って犬の右側面に付く。通過する犬との距離は50cm位までが望ましいが後方へは1~2m程度許される。

○犬が姿勢を維持する課目において、姿勢を実行始めてから足を動かすことや地面の臭いを嗅ぐ等は減点の対象となるが、環境の中で顔を向けたり体重の移動程度は減点の対象とならない。

○リンク内で意識的な首輪によるショックは禁止とし、その行為は審査員により注意され実行中課目もしくは次の課目が0点となる。再度繰り返される場合は失格としそれまで獲得した点も失う。犬の身体を直接手や足を使って行う姿勢変更等も虐待とみなされることがある。

○会場内で虐待行為があった場合は作業中であつても出場の権利を失い作業後であつた場合獲得した点も失う。首輪等による強いショック等も虐待とし1度で失格することもある。

○人や犬に対し攻撃的な犬や極端に怖がる犬など稟性に明らかな問題がある犬は参加できない。会場で判明した場合はその大会は失格となる。しかしその処分は永久的に続くものではない。

この服従競技規定は2024年 mayor's cup の規定であり霧ヶ峰ドッグ倶楽部の固定された規定ではありません。今後の開催に於いて大きく変更される可能性もあるので規定をよくお読みください。